

今日も、そこにいます。



# 2020年3月期 決算説明資料

---

2020年5月14日

証券コード：7058(東証JASDAQ)

共栄セキュリティーサービス株式会社

<https://www.kyoei-ss.co.jp>

当決算説明資料については、無断で複製、転載することを禁じます。



# 2020年3月期 連結業績概要

---

## 新型コロナウイルス感染症の影響

### ■ 2020年3月期

#### 業績への大きな影響はありません。

マラソン大会の中止など、影響は軽微であります。

### ■ 2021年3月期

施設警備や工事現場の交通誘導警備は、概ね従来通りの警備体制を維持しており業績への大きな影響は出ておりませんが、緊急事態宣言発令に伴い、一部商業施設閉鎖等による警備体制の見直しを行っている状況が発生しております。

なお、今後の見通しについては、コロナショックの影響について未だ不透明な状況であると考えており、慎重に検討しております。

このような状況により、  
**2021年3月期の業績予想は未定**としております。

このような厳しい経営環境下にあります、  
当社グループは、今後も施設警備の成長・規模拡大に取り組んでまいります。

# 2020年3月期 業績トピックス

- 施設警備の受注多数、G20サミット関連・ラグビー国際大会が収益貢献

## ■ ストック(積み上げ)型 ⇒ 売上高占有率 **72.5%**

当社グループの  
メイン事業分野

安定収益基盤



新対応領域を含む施設警備の受注好調

3Q新規開始の案件多く、2021/3期は通期で業績寄与  
\* 写真は新規現場での警備風景

## ■ スポット(臨時)型 ⇒ 売上高占有率 **27.5%**



G20サミット関連臨時警備  
事前警備からサミット開催期間まで、  
鉄道警備隊が活躍



ラグビー国際大会臨時警備  
試合会場での手荷物検査や金属探知機検査、  
会場施設の警備を実施

\* 写真は警備上の理由等で一部加工処理しています

## 2020年3月期 連結業績サマリ

- 売上高計画未達も前期比で大幅な増収増益を達成

(百万円)

	2019/3期	2020/3期 (予想)	2020/3期 (実績)	前期比	予想比
売上高	5,682	6,494	<b>6,415</b>	+ 12.9%	△1.2%
売上総利益	1,463	—	<b>1,651</b>	+ 12.9%	—
売上総利益率	25.8%	—	<b>25.7%</b>	—	—
営業利益	403	472	<b>445</b>	+ 10.4%	△5.6%
営業利益率	7.1%	7.3%	<b>6.9%</b>	—	—
経常利益	426	506	<b>496</b>	+ 16.3%	△1.9%
経常利益率	7.5%	7.8%	<b>7.7%</b>	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	277	322	<b>325</b>	+ 17.5%	+ 1.1%
1株当たり当期純利益(円)	261.77	213.74	<b>216.14</b>	△17.4%	+ 1.1%
ROE(%)	9.3	—	<b>8.9</b>	△0.4%	—
PER(倍)	10.4	—	<b>12.4</b>	+ 2.0	—
1株当たり配当金(円)	75.00	—	<b>75.00</b>	±0.00	—
連結配当性向(%)	28.7	—	<b>34.7</b>	+ 6.0%	—

## 2020年3月期 連結業績 前期比 主な変動要因

- 施設警備の受注好調が収益貢献、大型国際イベント警備も寄与

(百万円)

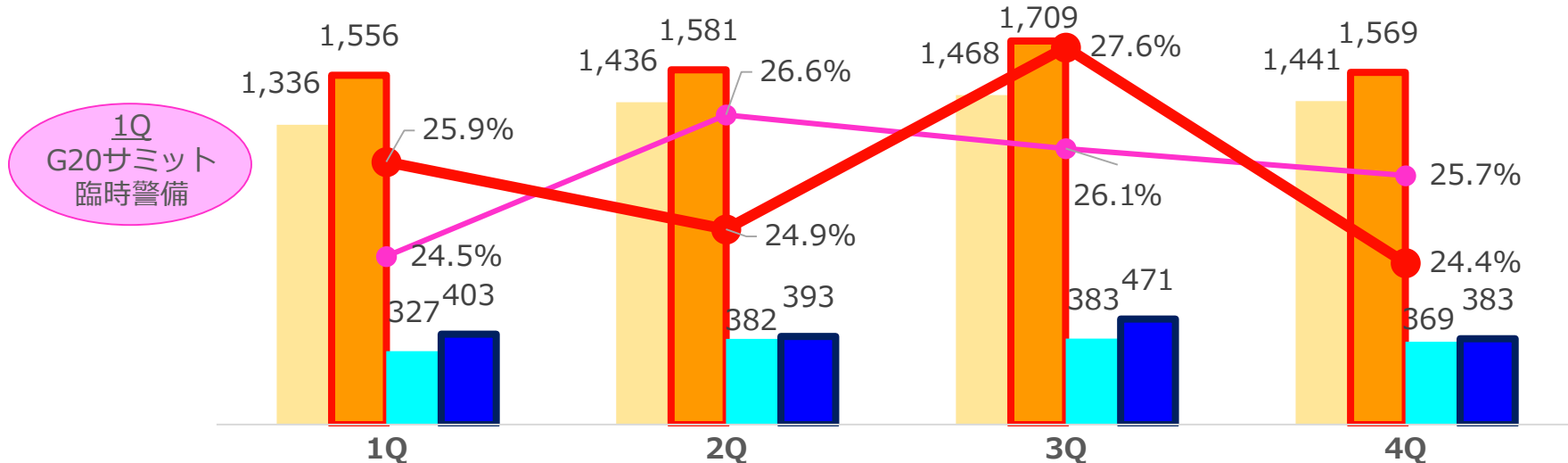
	前期比	変動要因
売上高	<b>+ 733</b> <b>+ 12.9%</b>	主な増加：施設警備が好調で受注多数 G20サミット関連及びラグビー国際大会臨時警備の受注
売上総利益	<b>+ 188</b> <b>+ 12.9%</b>	主な増加：G20サミット関連及びラグビー国際大会臨時警備が利益水準高め 3Q・4Qに行った料金改定
営業利益	<b>+ 42</b> <b>+ 10.4%</b>	主な減少：内部体制強化のための管理スタッフ増強 警備員教育訓練用映像ツールの制作費用 事業所新設・移転費用及び社員寮地代家賃
経常利益	<b>+ 69</b> <b>+ 16.3%</b>	主な増加：保険解約返戻金収入

# 2020年3月期 連結業績 会計期間推移 前期比

## ■ 売上高、売上総利益、売上総利益率

3Q  
ラグビー国際大会  
臨時警備

(百万円)



前期売上	1,336	1,436	1,468	1,441
当期売上高	1,556	1,581	1,709	1,569
前期売上総利益	327	382	383	369
当期売上総利益	403	393	471	383
前期売上総利益率	24.5%	26.6%	26.1%	25.7%
当期売上総利益率	25.9%	24.9%	27.6%	24.4%

- 前期2Q及び3Qは売上総利益率が高い水準で推移しておりますが、高利益率案件であった西日本豪雨対応の影響であります。

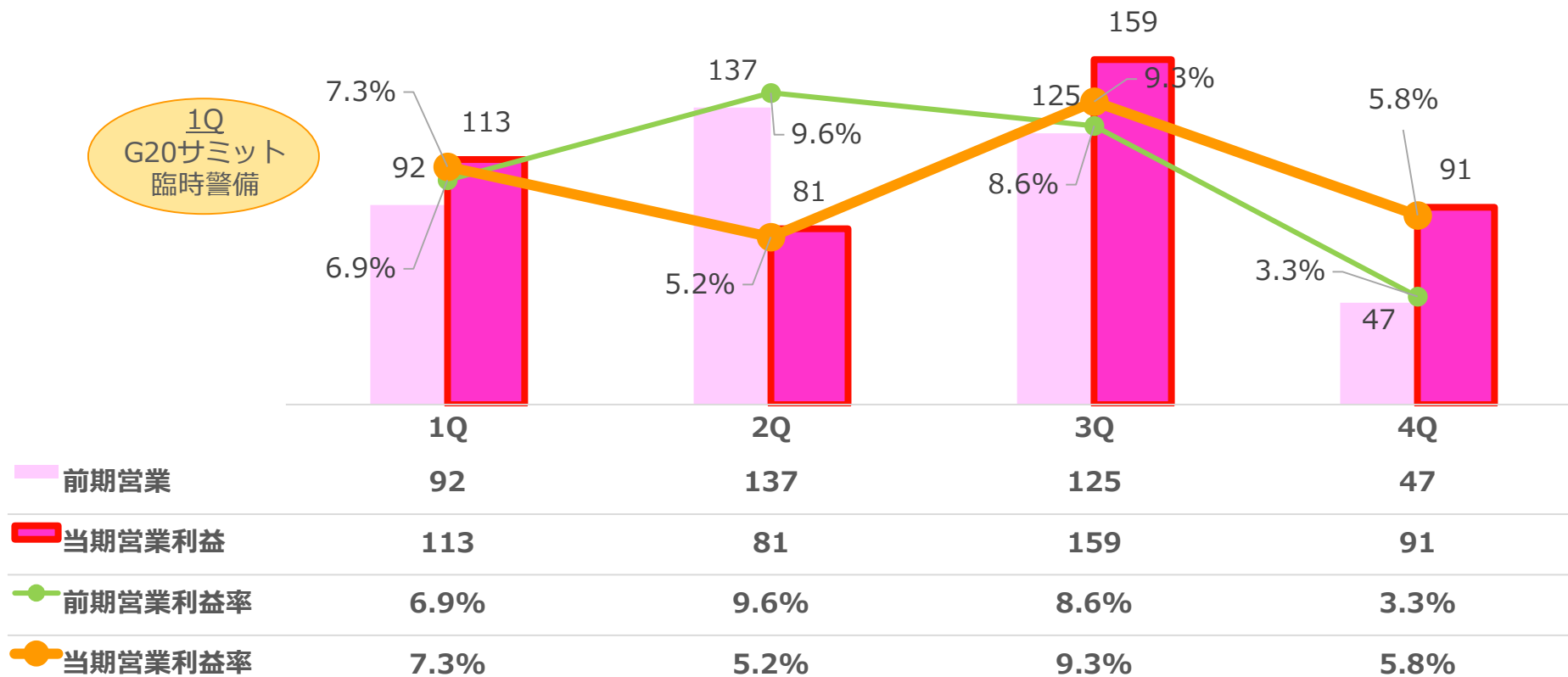


# 2020年3月期 連結業績 会計期間推移 前期比

## ■ 営業利益、営業利益率

3Q  
ラグビー国際大会  
臨時警備

(百万円)



- 前期4Qの営業利益及び営業利益率の低下は、上場に伴う増資により外形標準課税適用会社になったためであります。





## 2020年3月期 分野別売上高 前期比

- 施設・巡回警備分野が大きく成長・規模拡大

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	前期比増減額	前期比増減率
施設・巡回警備分野	3,852	4,528	+676	+17.6%
雑踏・交通誘導警備分野	1,558	1,595	+37	+2.4%
その他の分野	271	291	+19	+7.2%
合計	5,682	6,415	+733	+12.9%

### 施設・巡回警備分野：+17.6%

- 増収 施設警備が好調で受注多数  
G20サミット関連及びラグビー国際大会臨時警備の受注

### 雑踏・交通誘導警備分野：+2.4%

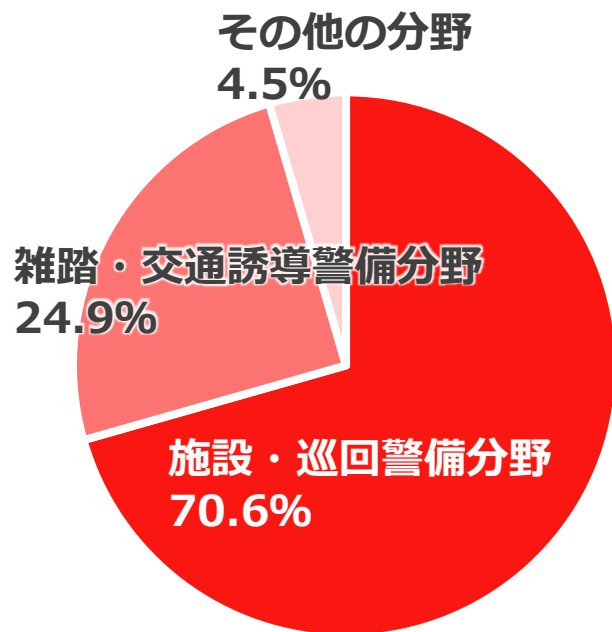
- 増収 ハイウェイ・セキュリティーの対応エリア拡大

### その他の分野：+7.2%

- 増収 マンション代行管理の規模拡大

## 2020年3月期 分野別売上高シェア

- 施設・巡回警備分野が増加し7割超となる



	2019/3期	2020/3期	前期比 増減率
施設・巡回警備分野	67.8%	<b>70.6%</b>	+2.8%
雑踏・交通誘導警備分野	27.4%	<b>24.9%</b>	△2.5%
その他の分野	4.8%	<b>4.5%</b>	△0.3%
合計	100.0%	<b>100.0%</b>	—

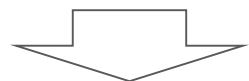
当社グループが推進する「施設・巡回警備分野」の売上高比率は新規受注により着実に高まっており、当該分野の当期売上高比率は前期比+2.8%の70.6%となりました。

## 2020年3月期 契約形態別売上高

- 長期契約が7割以上を占め、**安定収益基盤が構築**されている

	長期契約	短期契約	合計
施設・巡回警備分野	60.9%	9.7%	70.6%
雑踏・交通誘導警備分野	7.9%	17.0%	24.9%
その他の分野	3.7%	0.8%	4.5%
合計	72.5%	27.5%	100.0%

- 契約期間が1年超の契約を長期契約、1年以内の契約を短期契約として分類しております。但し、長期契約に付随した短期契約については長期契約に算入するなど、実情に即した分類としております。
- 施設・巡回警備分野の短期契約（一部は雑踏・交通誘導警備分野の短期契約）には、大型国際イベントの臨時警備が含まれております。その割合は概ね3%（わずか）であります。

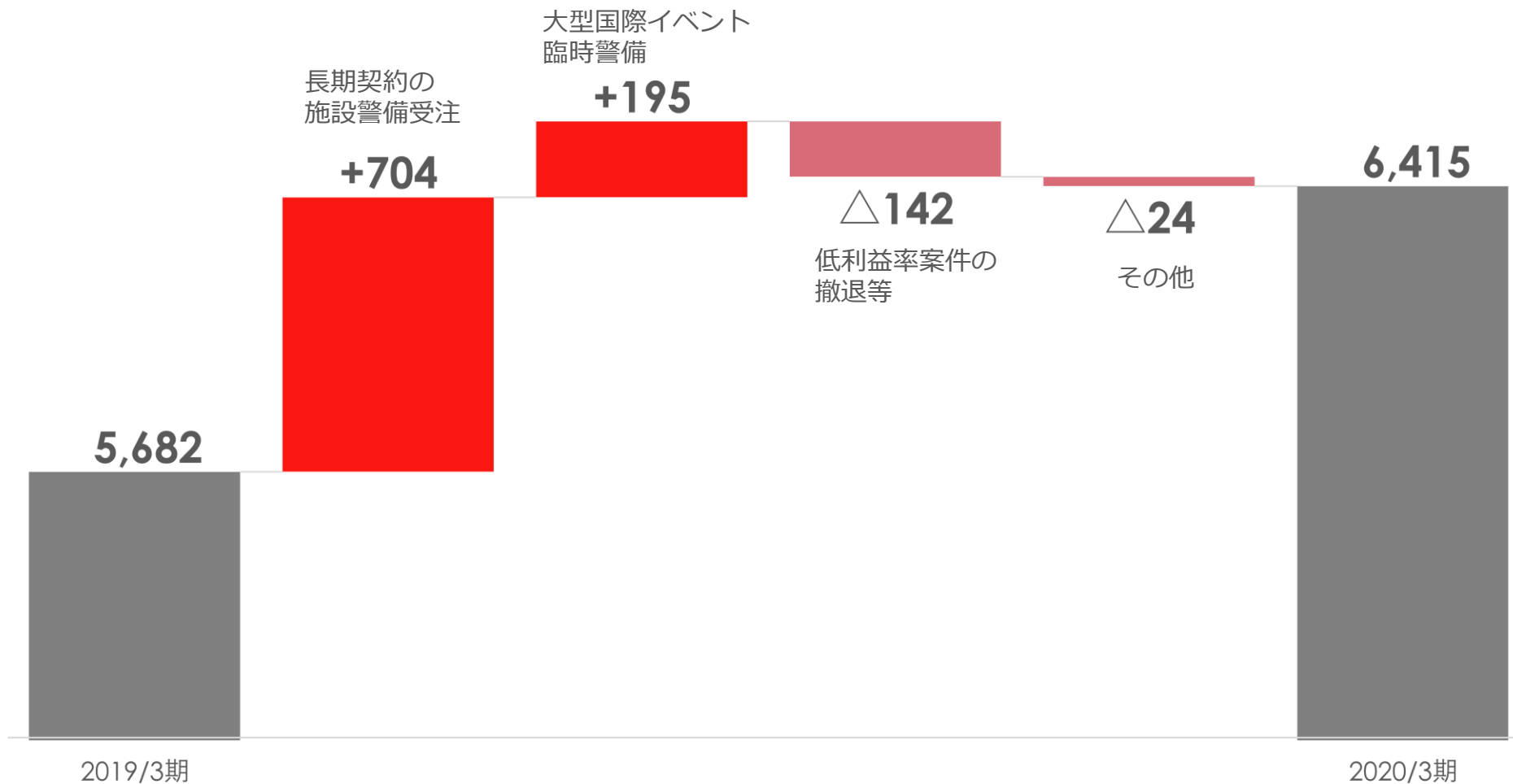


昨年実績195百万円が該当いたします(次ページ参照)。

## 2020年3月期 売上高増減要因

- 長期契約の施設警備受注が売上規模拡大に大きく貢献

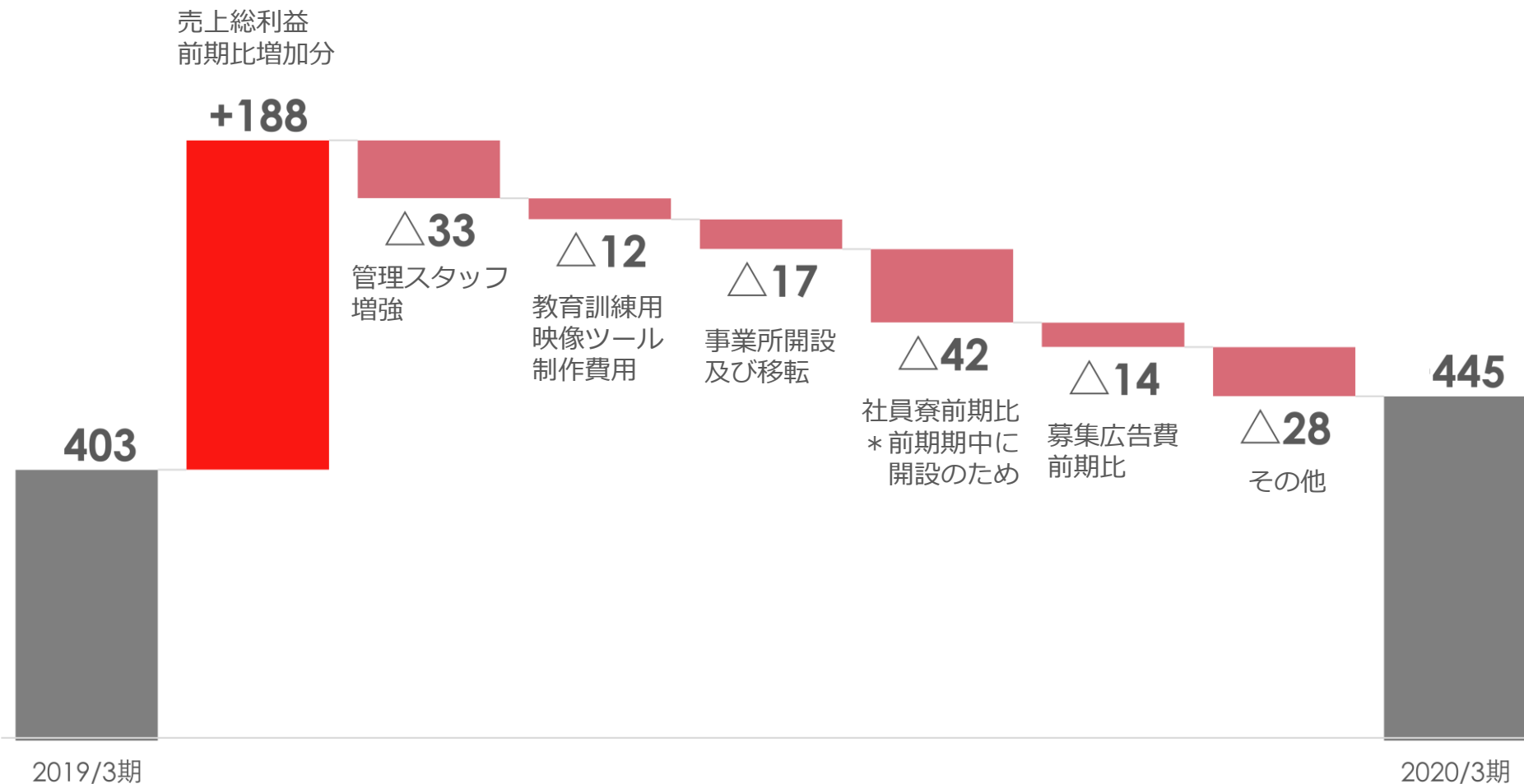
(百万円)



# 2020年3月期 営業利益増減要因

- 管理スタッフ増強、事業所開設・移転費用など発生するも増益達成

(百万円)



## 2020年3月期 連結貸借対照表サマリ

(百万円)

	2019/3期末	2020/3期末	増減	増減要因
資産合計	4,359	<b>4,588</b>	+228	
現金及び預金	2,553	<b>2,707</b>	+153	主な増加：利益計上 主な減少：配当の支払い
受取手形及び売掛金	595	<b>670</b>	+74	
有形・無形固定資産	345	<b>322</b>	△22	主な増加：のれんの減少
投資その他資産	810	<b>820</b>	+9	
負債合計	797	<b>819</b>	+21	
支払手形及び買掛金	25	<b>21</b>	△3	
未払金	470	<b>575</b>	+104	主な増加：事業拡大に伴う人件費増加
未払法人税等	125	<b>119</b>	△6	
純資産合計	3,561	<b>3,768</b>	+207	主な増加：利益剰余金の増加 主な減少：配当の支払い
自己資本比率	81.7	<b>82.1</b>	—	

## 2020年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書サマリ

(百万円)

	2019/3期末	2020/3期末	増減	増減要因
営業CF	389	<b>234</b>	△155	主な増加： ・利益の増加 ・人員増加による未払金の増加 主な減少： ・売上増に伴う売上債権の増加 ・法人税等の支払額の増加 ・前期末休日に伴う当期末債務の減少
投資CF	69	<b>21</b>	△47	主な減少： ・前期に比較し、保険積立金の解約による収入が減少
財務CF	893	△ <b>117</b>	△1,010	主な減少： ・当期中の配当金の支払い ・前期、新規上場に伴う資金調達
現金及び現金同等物の 期末残高	1,976	<b>2,115</b>	+138	

## 2020年3月期 人員増減

- 人員数未達も、1人当たり生産性向上で売上高及び利益は順調に推移

(人)

	前期末 18/4~19/3	期末計画 19/4~20/3	計画増減 19/4~20/3	期末実績 19/4~20/3	実績増減 19/4~20/3	計画達成率 19/4~20/3
正社員	423	463	+40	<b>399</b>	△24	—
契約社員等	1,235	1,458	+223	<b>1,431</b>	+196	87.9%
合計	1,658	1,921	+263	<b>1,830</b>	+172	65.4%

\* 人員数は、就業人員数であります。

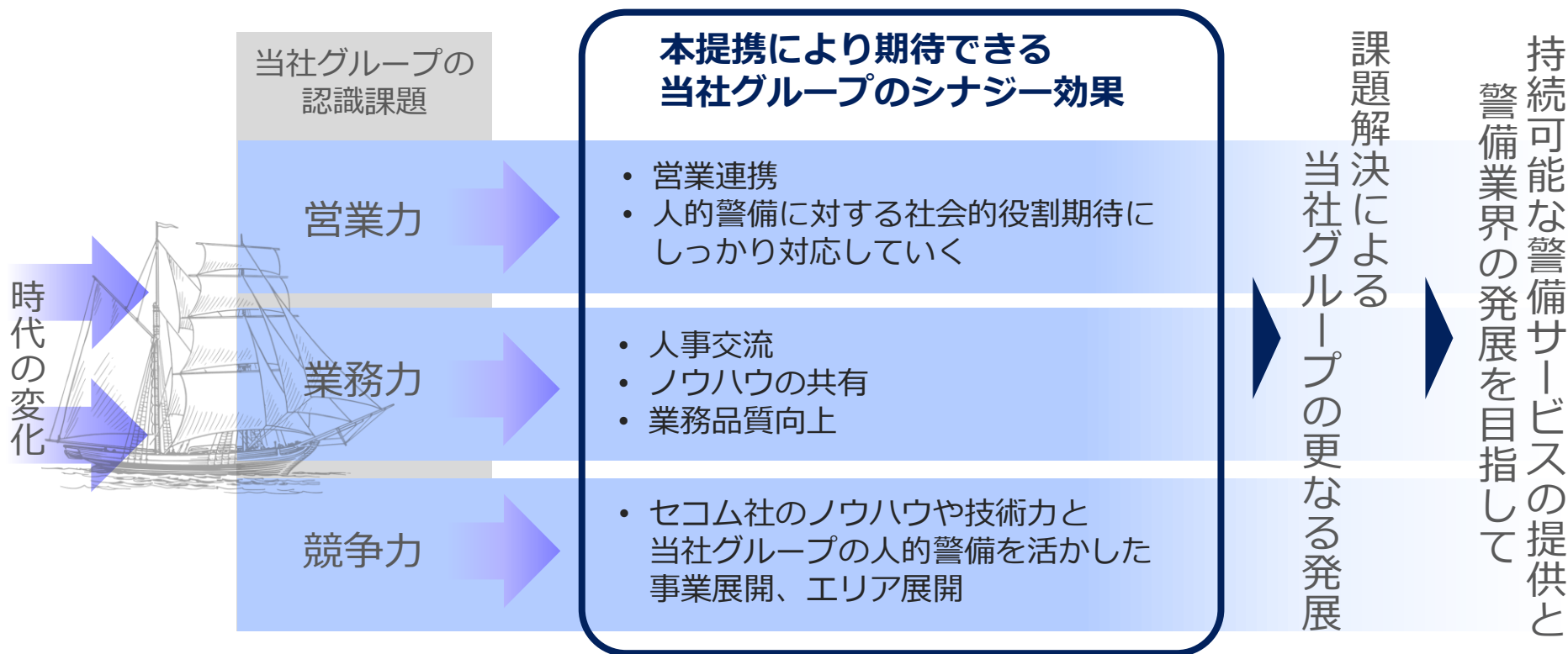
\* 正社員人員数は期間末日、契約社員等人員数は期間平均としております。



# セコム社との業務・資本提携について

- 当社グループの事業規模拡大には、営業力・業務力・競争力の強化が課題。
- 事業の発展のため、本提携を契機として業務品質向上・業務効率化を加速。

今日も、そこにいます。

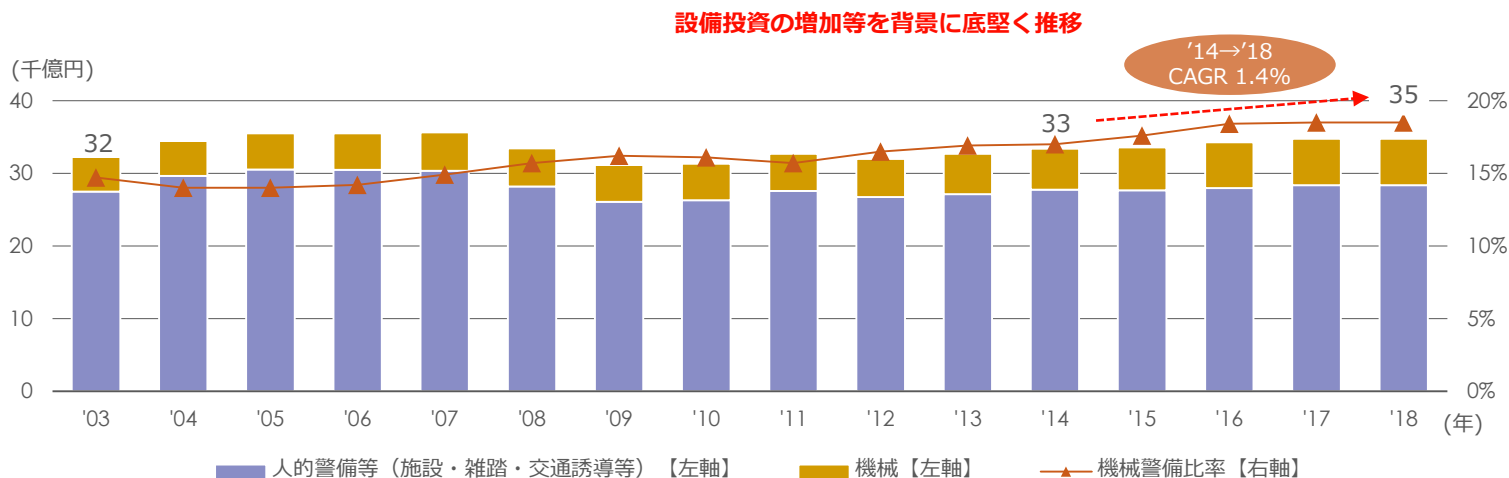


# 当社グループの成長戦略

---

# 成長戦略(警備業界の動向)

## 市場規模の推移

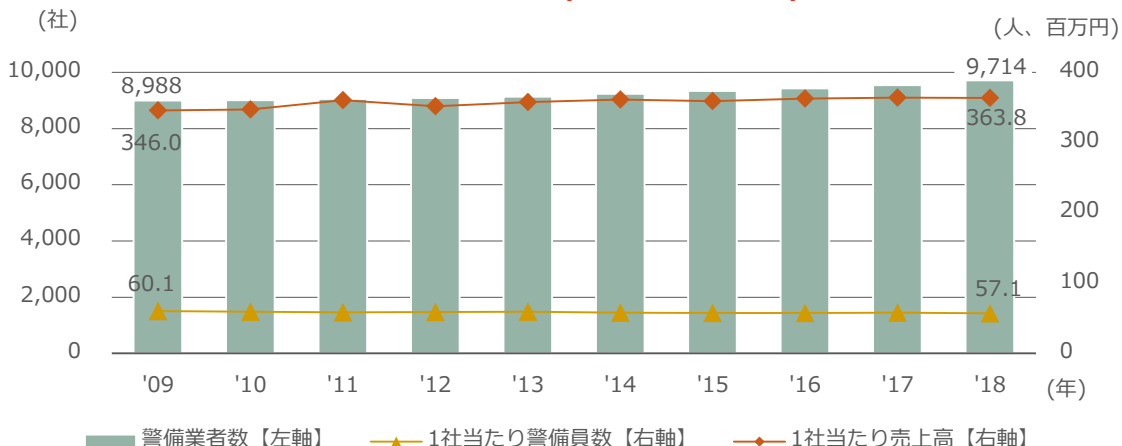


### 今後の方向性

- 全体：底堅く推移
- 人的：一部機械化する可能性
- 機械：省人化等を背景に拡大

## 警備業者数の推移

**警備業者数は2号業務(雑踏・交通誘導警備)を中心に増加、1社当たり警備員数は微減、1社当たり売上高は微増**



業務区分毎の警備業者数の推移					
区分	概要	'16	'18	'16→'18	競争環境の方向性
1号	施設、機械、空港保安	6,847	6,988	+141	概ね不変
2号	交通誘導、雑踏	7,008	7,322	+314	やや激化
3号	貴重品運搬、核燃料運搬	702	719	+17	不変
4号	緊急通報サービス等	657	643	▲14	不変
合計		9,434	9,714	+280	-

(出所)警察庁生活安全局「警備業の概況」



# 成長戦略(当社グループのターゲット)

- 防犯・防災意識の高まりで増加するニーズを背景に、約2兆8千億円にもなる人的警備のマーケットを取りに行く。

- ✓ 通り魔殺傷事件や放火殺人事件など、世間を揺るがす凶悪事件。  
もしもその時、警備員がいたら・・・。
- ✓ 世界遺産、全焼。  
もしもその時、警備員がいたら・・・。



事前に防止できるのは人的警備  
抑止効果も期待できる

+

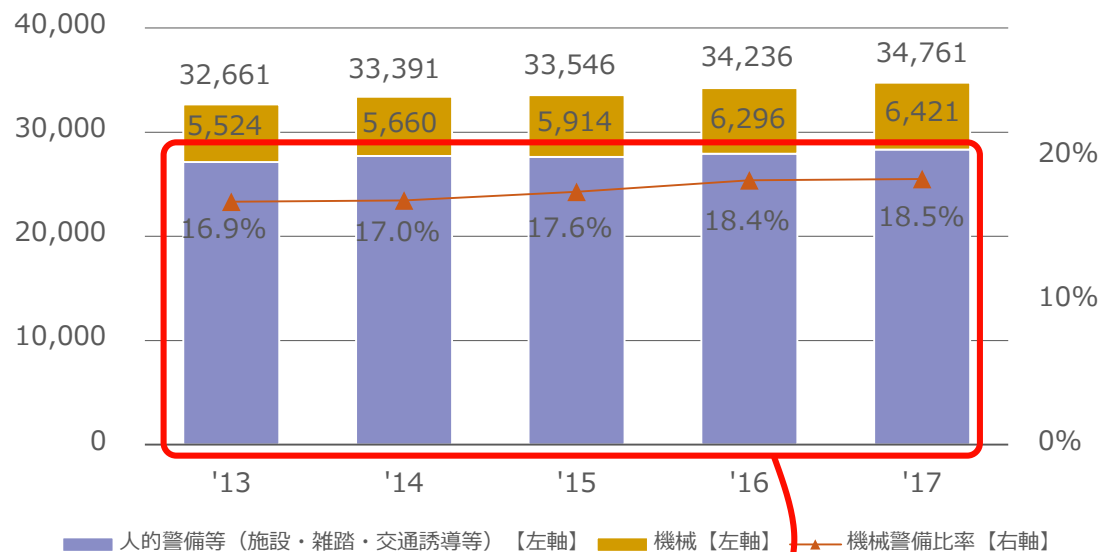
全業種的な人手不足

||

警備員の活躍するフィールドが拡大

- ✓ 新幹線内を巡回する警乗、ホームをパトロールする鉄道警備隊
- ✓ 企業受付やインフォメーション要員の派遣
- ✓ 駐車場の管理人、マンションの管理人代行
- ✓ 高速道路上の故障車の後方警戒  
etc...

2021年のビッグイベントが一巡した後も、人的警備ニーズは拡大すると考えられる。

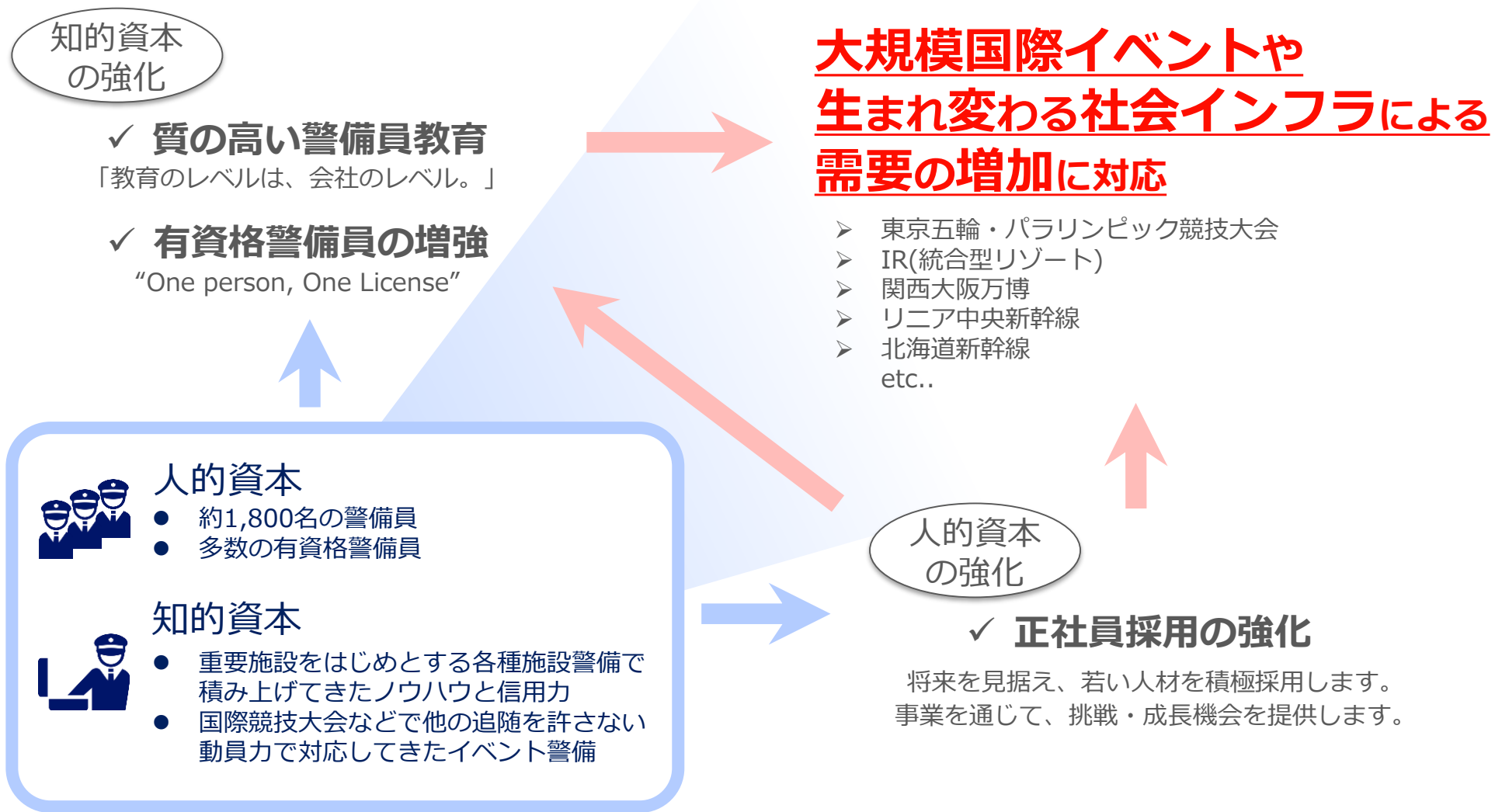


当社グループは、**約2兆8千億円**にもなる人的警備市場をターゲットに施設警備を中心として、既存事業である人的警備の成長・規模拡大を進めてまいります。



# 成長戦略(概念図)

- 大規模国際イベントや生まれ変わる社会インフラによる需要の増加に対応。
- 当社グループの人的資本、知的資本、そして上場会社であることの高い信用力を武器に、競合他社を出し抜く。

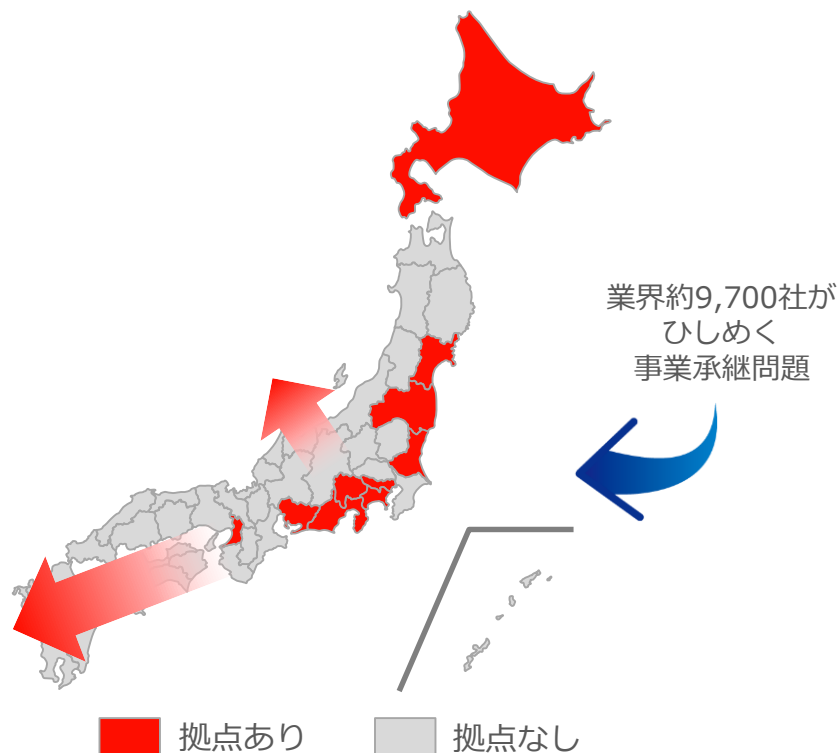


# 成長戦略(エリア戦略)

- エリア戦略は、M&Aやアライアンスを含めて検討。
- 警備事業のほか、ビルメンテナンス等の周辺事業も考えられる。

## 未進出エリアとビジネスチャンス

- 平和で包摂的な社会を促進するという社会的期待に応えていくため、成長・規模拡大を持続していく必要がある。
- 未進出エリア進攻のほか、既存エリアの充実も考えられる。



## M&Aの活用

- 事業エリア拡大と人材確保のため、M&Aを活用。
- 積極的に案件発掘するためのKSSGC(M&Aタスクフォース)発足
- 事業承継案件の譲り受けにも積極的に取り組んでいく。
- 警備業のみならず、周辺事業についても検討する。

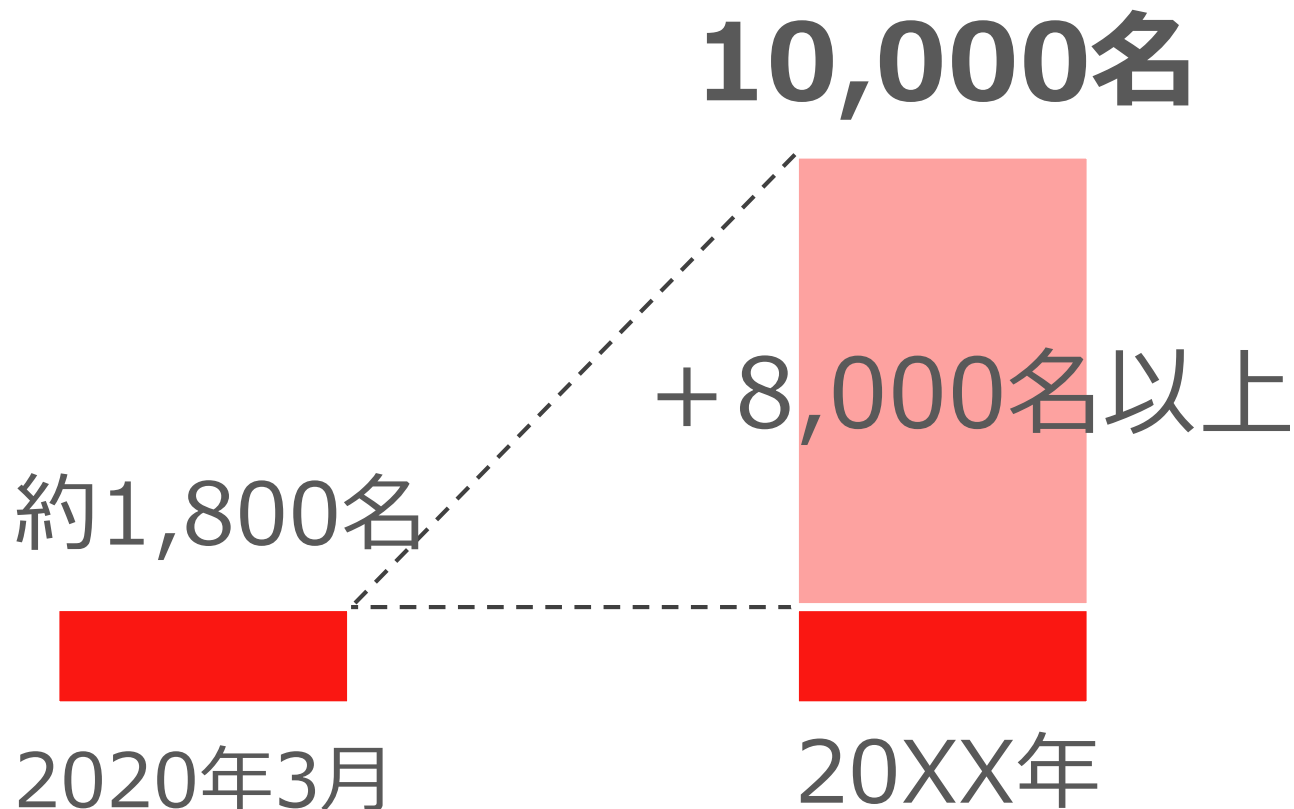


2019年7月3日付 プレスリリース



# 日本一の人的警備会社へ

- 総勢1万人の隊員数を誇る警備会社を目指す。



# (Appendix)会社概要

---



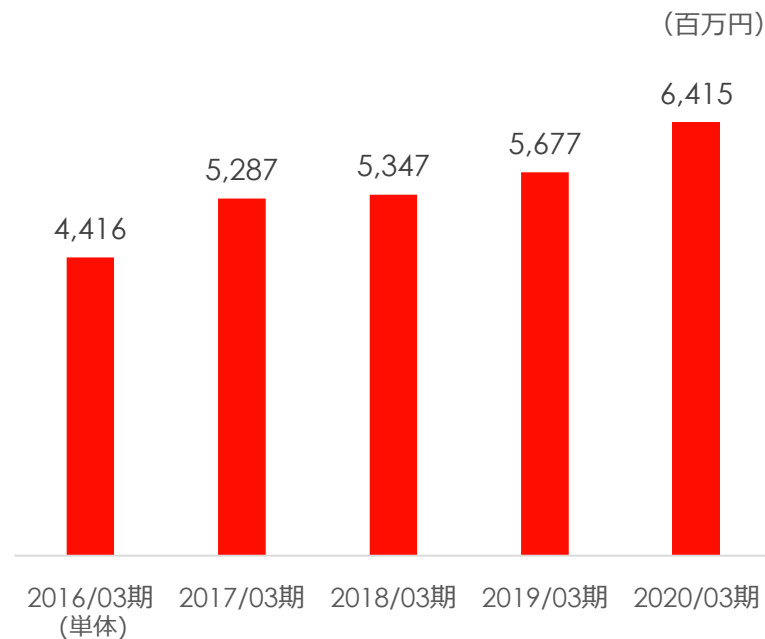
# 会社概要

- 人的警備に特化し、収益安定性の高い施設警備を主力とする、設立35年の中堅警備会社。
- 警備事業を主力とした上場会社は、国内で8社のみ。

## 会社概要(2020年3月31日現在)

社名	共栄セキュリティーサービス株式会社 ("Kyoei Security Service Co., Ltd.")
設立	1985年5月15日
資本金	4億98百万円
本社所在地	〒102-0074 東京都千代田区九段南1丁目6番17号 千代田会館
電話番号	03-3511-7780 (代表)
代表取締役社長	我妻 文男 (あづま ふみお)
上場	2019年3月 (東証JASDAQ 証券コード：7058)
発行済株式総数	1,506千株
事業内容	施設・巡回警備、雑踏・交通誘導警備を中心とした警備業
連結従業員数	1,830名 (2020年3月31日現在、契約社員等は期中平均)
グループ会社	株式会社道都警備 (人的警備) 持分100% 株式会社CSPパーキングサポート 持分33% (コインパーキングのトラブル対応) (セフト警備保障67%)

## 連結売上高推移



# 沿革

- 交通誘導警備業務を事業目的として設立。
- 2000年、収益安定性を求め施設警備へシフトチェンジ、成長・規模拡大し、施設警備を主力業務とする。

## 交通誘導警備の拡大とエリア展開

- 1985年 「共栄セキュリティーサービス株式会社」設立  
交通誘導警備業務の提供を開始
- 1992～97年 静岡県、福島県、宮城県に進出

## 施設警備に参入

- 2000年 「施設警備部」設置  
大型複合商業施設の施設警備を開始

## ビッグイベントやボディーガードなど、網羅的な人的警備企業の基礎を構築

- 2002年 サッカーの世界選手権大会の警備を実施  
ボディーガード(身辺警護)の提供を開始

## 施設警備の成長・規模拡大と更なるエリア展開

- 2008年 愛知県に進出  
名古屋営業所(現名古屋営業所)開設
- 2011年 研修センターを新設  
関西地区に進出  
大阪営業所(現関西支社)開設

## 事業の多角化とM&A

- 2015年 駐車場運営管理業務を開始  
北海道に進出  
(株)道都警備(北海道札幌市)を完全子会社化
- 2016年 (株)CSPパーキングサポートを持分法適用会社化

## そして、上場企業へ・・・

- 2019年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場



交通誘導警備  
(1994年頃撮影)



サッカー世界選手権大会警備  
でのスクリーニング業務  
(2002年)



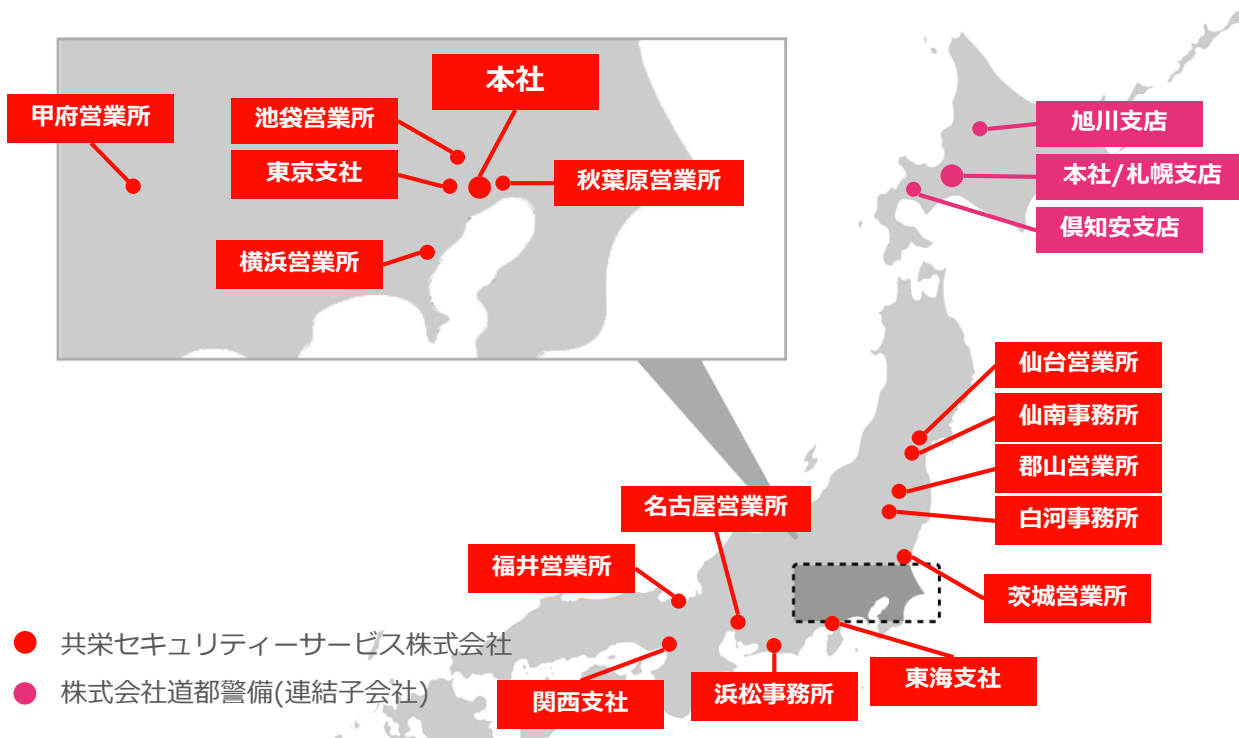
商業施設オープニングイベント  
(2010年)



新規上場セレモニー  
(2019年3月18日)

# 警備ネットワーク(2020年5月14日現在)

- 営業所数が10以上の警備業者は、102/9,714業者 ⇒ 当社は上位1.1%内(単体ベース)
- 警備員数1,000名超の警備業者は、47/9,714業者 ⇒ 当社は上位0.5%内(単体ベース)
- 広域エリア展開、警備員1,000名以上で施設警備を主力とする警備会社は数えるほどしかなく、当社の存在感は大きい。  
(警察庁「平成30年における警備業の概況」より)



事業所数  
**19**  
拠点  
(2019年9月30日現在)

警備員数  
約  
**1,830**  
名

※(株)CSPパーキングサポートを除く連結ベース

## 動員実績

- 単一のご契約先で、旭川から大阪まで警備員を派遣しています。
- ビッグイベントや商業施設オープン警備では、仙台から大阪において、1日あたり100名超を動員した実績を持っています。
- 2019年秋のラグビー国際大会では、東京・横浜・静岡の各会場において、1日あたり最大120名を動員しました。
- 2018年7月の西日本豪雨では、要請翌日に30名を広島県および岡山県に派遣しました。



# 事業概要

- 施設警備や交通誘導警備、ボディガード、そして関連領域まで幅広くカバー。
- 売上高の約7割を占める施設・巡回警備分野。その中でも施設警備を主力としている。
- 施設警備は、ストック型ビジネスであり季節性もほとんど無く、収益安定性が高い。
- 報告セグメントは「警備事業」単一ですが、3つの業務分野に分類し、売上高を開示しています(期末のみ)。

施設・巡回警備  
分野

当社グループの売上比率70.6%

施設警備

レプション・コンシェルジュ  
(セキュリティレディ)

駐車場警備

空港消防業務

雑踏・交通誘導  
警備分野

当社グループの売上比率24.9%

イベント警備  
(雑踏警備)

交通誘導警備

ハイウェイ・セキュリティー  
(高速機動隊)

その他

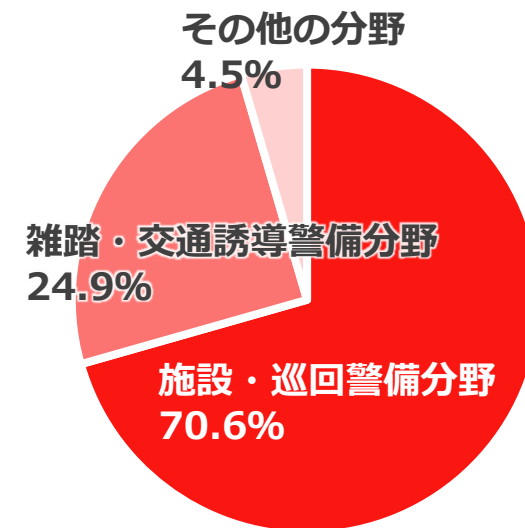
ボディガード

駐車場運営管理

マンション管理業務

建物・設備管理

■ 分野別売上高比率(2020年3月期)



## 将来に関する記述等についてのご注意

- このスライドには、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

**本資料に関するお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。**

共栄セキュリティーサービス株式会社

経営企画室

TEL 03-3511-7780

E-mail [ir@kyoei-ss.co.jp](mailto:ir@kyoei-ss.co.jp)

または、ホームページよりお問い合わせください。

<https://www.kyoei-ss.co.jp/ir/>

# 今日も、そこにいます。

当社は、創業以来、かけがえのないものを守るために、  
現場の先頭に立ち、ひたすら黒衣に徹してまいりました。  
先頭に立って裏方に徹する。  
お客様がいつも安心して過ごすことのできる1日のために警備員がいることを、  
「今日も、そこにいます。」という言葉に込めました。